

キャベツ

1 予報（6月）の内容

病害虫名	発生時期	発生量・感染量	予報の根拠
コナガ	－	やや多	(1) 県北地域のフェロモントラップ誘殺数は平年より多かった。(+) (2) 6月の気温はほぼ平年並の予報であり、増殖を助長する条件ではない。(±)
ヨトウガ	並～やや早	並	(1) 有効積算温度から推定される産卵盛期は、平年並からやや早い。 (2) 昨年秋の発生量は、平年並だった。(±) (3) 6月の気温はほぼ平年並の予報であり、増殖を助長する条件ではない。(±)
モンシロチョウ	－	やや少	(1) 5月の巡回調査では、産卵圃場率は平年より低かった。(－) (2) 6月の気温はほぼ平年並の予報であり、増殖を助長する条件ではない。(±)

記号の説明 (++)：重要な多発要因、(+)：多発要因、(±)：並発要因、(－)：少発要因、(－)：重要な少発要因

2 防除のポイント

【コナガ】

- (1) 圃場内をよく観察し、幼虫の発生が確認されたら防除を開始する。
- (2) 今後、定植する作型では、定植時に必ず薬剤処理する。
- (3) 薬剤抵抗性個体の出現を回避するため、以下のことに留意する。
 - ア コナガは飛来性の害虫であり、ジアミド系殺虫剤の効果が低いコナガは本県に広く発生している可能性がある。ジアミド系殺虫剤による防除を実施したにもかかわらず、コナガの幼虫が見られる場合には、他系統の薬剤により防除を実施する。
 - イ コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤、同一系統の連用は避け、系統の異なる薬剤をローテーション使用する。また、ジアミド系殺虫剤の使用は1作型1回にとどめ、年間使用回数の削減に努める。

【ヨトウガ】

- (1) 有効積算温度から予測した産卵盛期および防除適期は、表1の通りである。
- (2) 成長した幼虫は食害量が多いので、下記を目安に圃場をよく観察し、適期防除を行う。

表1 有効積算温度による産卵盛期および防除適期の予測

アメダス地点	産卵盛期		防除適期	
	本年	平年	本年	平年
軽米	6月3日	6月6日	6月6日～6月11日	6月10日～6月15日
奥中山	6月14日	6月17日	6月18日～6月22日	6月20日～6月24日
松尾	6月5日	6月6日	6月8日～6月12日	6月9日～6月13日
盛岡	5月28日	5月31日	5月31日～6月4日	6月3日～6月7日
北上	5月24日	5月28日	5月28日～5月31日	5月31日～6月4日

※本年の予測には、5月28日までは各地点におけるアメダス日平均気温実況値、5月29日以降は日平均気温平年値を用いた。

【モンシロチョウ】

- (1) 通常はコナガ、ヨトウガと同時防除される。
- (2) 若齢幼虫の発生が目立つ場合は直ちに薬剤による防除を実施する。

【タマナギンウワバ】

- (1) 若齢幼虫の発生が目立つ場合は直ちに薬剤による防除を実施する。
- (2) 葉裏に産卵することが多いため、防除の際は葉裏まで薬剤が十分かかるように注意する。